

第11回奈良ESD連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2019年2月15日(金) 19時～21時
- ◇会場 次世代教員養成センター2号館
- ◇参加者 大西・圓山(奈良市立飛鳥小)、島(郡山西小)、後藤田(成蹊大)、新宮(平城小)
中澤哲(平郡北小)、中澤敦(きんき環境館)、青山(京エコロジー)
糸・片山・菱谷・西田・山田(奈良教育大学学生)
北村・中澤(奈良教育大学) 計15名

◇学生のESD指導案の検討

1. 「チャンス逃すな! 箕面っ子!」(小学5年生総合: 菱谷君)

- ・2020年に北大阪急行が延伸される。2つの新駅がつけられる
- ・箕面船場阪大前駅に注目

箕面船場: かつては繊維産業のまち

現状: さびれている駅前

学習テーマ: 駅前の再開発を考えよう

ゲストティーチャー:

北大阪急行延伸会議の方、大阪船場繊維卸商団地組合の方

箕面市の条例 まちづくり推進条例施行規則第4条 緑化もしなければならない

多様性 これを機に様々な人が活動し始めている。

連携性 様々な立場

長期的思考力: 世代内・世代間の公平

SDGs: 8・9・11・12・15(条例より)

・導入について

いきなりゲストティーチャーではなく、事前に児童の知識を増やし関心を高めておく

2時間目の衰退している原因・今後のことを考える場面でゲストティーチャーを招へいする

導入の工夫: 工事の写真、観光資源(観光客の移り変わり)、地域の名物

住みたいまちランキングより衰退していることを把握させる

ゲストティーチャーと出会う必要性を感じさせる

3年生の地域学習を思い出す

完成予想図・マスタープランを見せて関心を高める

・「チャンス」は誰にとって

- ・生活は便利になるが、そのメリット・デメリット(例えば、商店の人たち)

様々な立場の人の立場から考える ← クリティカルシンキング

- ・提案先を再考した方がよいのでは

- ・PRについて おさえてほしいPRポイントは?(利便性と緑化、観光)

- ・緑化条例からSDGsの15との関連 外来種ではかえって問題になる。緑化の内容が重要。

・なぜ、船場繊維卸商団地組合がそこまで力を入れているのか。そこを考えると何かが見えてくるかも。



◇現職教員のESD実践報告検討

2. 「ダンボールコンポストから考えよう」(第4学年特別活動・圓山)

- ・食物アレルギーの視点、食育の視点、食品ロスの視点なども学ぶことができた。
- ・校内だが、教職室や委員会など多様な人と連携することができた。
- ・自分達でできることを考えるのが困難であった。
- ・動画は子どもだけで作成するのは困難。
- ・熟成中・温度が上昇しているのを体感している。
- ・紙芝居を読みに行かせてもらう低学年へは、打ち合わせを指示したが、その他には自分たちで打ち合わせをするようになった。



→ 主体的な行動化に成果が見られた。

- ・市の施策をクリティカルにみることができている。
- ・連携性について加筆した方がよい。
- ・ダンボールコンポストの機能を紹介するポスター
- ・考察の書き方
子どもの変容について
(1) ESDの視点について
(2) ESDで育てたい資質能力について
(3) ESDで育てたい価値観について (SDGsの達成との関連を含む)
という分析的な書き方のあと、全体的な子どもの変容でまとめるとよいのでは。

3. 信貴山縁起絵巻をよむ(小学6年生総合・中澤哲)

考察について

- ①地域の教材化の意義
- ②地域との連携の意義
- ③児童の変容

- ・地域の方が子ども発表を期待していた。貢献度がかなりあった。発信した場所が校内にとどまらなくてよかった。(発信の仕方)
- ・会場に感想カードなどを用意するとよいのでは。(子どもにとっての最大の評価)
- ・発表した児童の変容を記載することで分析材料になる。
- ・しっかり見させる指導方法(ボランティアガイドと一緒に見たのが効果があった)
- ・振り返りカードや児童の作品を分析材料にする。
- ・発信は伝えて終わりでは、児童の本当の変容は見えにくい。受けての感想を子どもに伝えて、それに対して子どもがどう感じたかが大切。
- ・考察の1つ目と2つ目は、授業方法に関する振り返りになっている
- ・児童の変容を(1)(2)(3)でまとめてはどうか



4. これからの食料生産とわたしたち（第5 学年社会科：新宮）



成果・課題

(1) 授業後のアンケートの分析

- ・耕作放棄地について児童も地域も関心が高まった
- ・児童の発信が地域の人に影響を与えた（フードアクション）
- ・8に書かれていることを9で考察
- ・引用文が長いので、もっと簡潔に。
- ・引用を跡付けるだけでなく、実践を通して新たな児童の変容もあるほうがいい。

- ・子どもの具体的な姿をもとに考察すべき
- ・平易な文章で考察すること。内容的には問題ないが。

5. 総合学習（大学生：青山）・指導案の検討

- ・環境教育だけでなく、ESDやSDGsへの認知度を高めることが目的
- ・刺激を受けた学生が行動化するように 活動の深化・多様化に
- ・スタジオ（インタビューツアー）
企業へのインタビュー調査
- ・ラボ（スキルアップゼミ）
企業と一緒に課題解決の行動化
- ・交流会・報告会
- ・意欲のある大学生が対象



第1次の前段階の「なぜ、今SDGsなのか」が重要。ここを第0次ではなく第1次に位置付ける。空中戦に終始しないために、この共通理解が重要。地域の課題と結び付けて考えさせる。

- ・自分の活動や考えを出し合う、交流し合う場面があった方がいい。視野を広げるためにも。
- ・想定される学生 プログラムを学生と一緒に7か月かけてつくっている。すでに企業と連携して活動している学生もある。なるべく広く声をかけたい。
- ・このプログラムを通して、自分たちの活動がレベルUPしてもらうのが目的。現状を具体的に把握させ、終了後の自分や活動と比較して考察する。
- ・4人組のチームの運営を大切にする。合宿が効果的。
- ・第一次産業とのかかわりが少ないのでは。

